College of International Relations/Junior College (Mishima Campus)
Nihon University
平成31年3月1日発行　年2回発行
日本大学国際関係学部 ・短期大学部（三島校舎）広報誌

Campus Life

No173 2019.3

ティーチング・インターンシップ・プログラムで日本語や日本文化を子どもたちに英語で教える
St Mary's Diocesan School（ニュージーランド）にて

ネイティブ教員との
英語の授業風景

海外ゼミ研修
ロシア・エカテリーナ宮殿にて

国立サンクトペテルブルグ大学生との
意見交換会

日本大学　国際関係学部・短期大学部（三島校舎）
静岡県三島市文教町2-31-145　日本大学国際関係学部　広報委員会
http://www.ir.nihon-u.ac.jp/

キャンパスライフ　2018.9〜2019.1

日本大学ワールド･カフェ開催

10月14日（日）、日本大学の全1年生を対象とした学部間交流行事「ワールド･カフェ」が行われた。三島会場では、他学部からの学生を多数迎え、将来の目標などについて熱心な意見交換が行われた。

ミニオープンキャンパス大盛況

10月8日（月･体育の日）、第3回国際関係学部ミニオープンキャンパスが開催された。今回は学部概要説明、授業見学、各種相談（学科、奨学金、学生生活、留学、入試）、在学生トークが用意され、盛況であった。

第68回富桜祭、6,230人の来場者で賑わう

10月27日（土）と28日（日）の2日間にわたり、第68回富桜祭が開催された。各校舎で、文化系団体やゼミナールの展示･活動が紹介された。また、多くの模擬店が軒を連ね、連日賑わい、野外特設ステージでは、音楽演奏やダンスが披露され、多数の催しが行われた。

後期交換留学生受け入れ開始

海外提携校からの交換留学生受け入れを9月12日（水）に開始した。今期は米国、韓国、スペイン、台湾、そして中国から、計12名の学生が半年または1年間本学部で学ぶ予定。本学部学生との交流活動も、国際福祉活動団体「バディプログラム」を中心に数多く計画されている。

最新のキャンパスニュースは、国際関係学部ホームページ（http://www.ir.nihon-u.ac.jp/）にて、随時更新してお伝えしています。ぜひご覧ください。

平成30年度下期市民公開講座開催

10月、下期市民公開講座「交流する日本と中国―日中関係を紐解く―」を開催。本学部の教員が経済、法律、観光、詩歌、民間交流といった幅広いテーマについて計5回の講演を行った。毎回多くの市民の皆様がご参加くださり、活発な質疑応答が行われた。

キャンパスでの国際交流･Language Cafe

11月27日（火）に北口校舎の食堂にて、第1回Language Cafeを開催。本学部に学ぶ留学生と日本人学生が外国語を用いて交流を深める目的で企画され、今回は日中双方の学生40名が集い、互いの理解を深めた。

避難訓練を実施

11月1日（木）と12月14日（金）、北口校舎にて避難訓練を実施した。避難経路を確認し、万が一に備えた。

クリスマスイルミネーションが点灯

12月、15号館1階リフレッシュエリアに4.5メートルのツリーと電飾オブジェが設置され、行きかう学生の目を楽しませた。また、キャンパス内の樹木や北口校舎内にも電飾が灯り、師走の雰囲気を醸し出した。

国際関係研究所主催シンポジウム開催

12月1日（土）、国内外から5名の専門家を迎え「2018年の朝鮮半島情勢と国際関係」と題する国際シンポジウムを開催。米朝首脳会談がもたらす朝鮮半島情勢を徹底的に分析し、同時通訳を交えた討論が展開された。終日多くの聴衆が訪れ、関心の高さが示された。

生活科学研究所主催シンポジウム開催

12月7日(金)、生活科学研究所シンポジウム「世界の食事情から考える 食べることの意味」が開催された。国連世界食糧計画の焼家直絵氏、静岡ムスリム協会のアサディみわ氏の講演の他、本学教員による充実した4本の研究発表を通して人間にとっての「食」の意味を多面的に考察した。来場者は535名。

活躍する在学生

ゴルフ・アジア競技大会出場 日本優勝に貢献

国際総合政策学科 4年
今野 大喜

2018年8月にインドネシアのジャカルタで開催されたアジア競技大会のゴルフ競技に日本ナショナルチームの一員として出場しました。この大会において、日本は団体で優勝を飾ることができ、個人でも8位という成績を収めることができました。4年に一度という大きな国際舞台だったので、個人でもメダルを獲ることを目標としてきましたが、一歩及ばなかったというところが心残りです。ただ、このような大きな国際大会に出場し、経験を積むことができたのも、周囲の方々の支援があったからこそだと改めて実感しています。今後は、プロゴルファーとして活動していきます。国内外を舞台に様々な大会で活躍できるプレーヤーとなることが今後の目標です。

インドネシアへ交換留学 挑戦することを学ぶ

国際総合政策学科 4年
服部 克郎

日本では味わえない新しいことを異文化の異国の地で。そう思い、私は本学部の交換留学制度を利用して、インドネシア教育大学へ旅立ちました。英語以外では、挨拶程度の日常会話しか現地の言葉に自信がありませんでした。国民の90%がイスラム教という異文化の地。発展途上国ということもあり、決して全てが安全で、衛生的とは言えない国。日本の常識や英語が通用せず、食事もストリートフードとの格闘でした。最初は挫折の繰り返しでした。自分の無力さを痛感する毎日でした。しかし、そのたびに学び、そして現地の人とのコミュニケーションを通じて国籍を超えた多くの優しさと愛に触れ、忘れることができない素晴らしい経験をすることができました。私はこの経験を通して、自分が思っていること、目標にしていることを、思いの中に留めておくのではなく、それを行動へと変えていくことの大切さを学びました。挑戦し続けること。これが、私たちにとって最も大切な学びの一つであると思います。

現地で所属していたソフトボール部の仲間たちと。前列中央が筆者

全日本サーフィン選手権大会で ベスト8

国際総合政策学科 2年
伊藤 大河

2018年8月、全日本サーフィン選手権大会に出場し、ベスト8の成績を収めました。2年前の大会では準優勝を飾ることができましたが、今回は良い波を掴むことが出来ず、準々決勝で敗北となりました。サーフィンは自然を相手とするスポーツなので、技術だけではなく、波を観察し、判断する力が重要になります。これからもスキルを磨き、次こそは小学生の頃からの目標であった日本一を目指したいと思います。

アマチュア自転車レースの 最高峰に挑戦

国内でのレース時のもの

国際教養学科 1年
古川 裕真

2018年10月、ニューカレドニアで開催されたアマチュア自転車レースの最高峰と言われるTour de Nouvelle-Calédonieに参加しました。毎日100kmのレースを10日間続けます。世界チャンピオンやフランスチャンピオンも参加するレベルの高い国際的レースで、改めて世界とのレベルの差を実感し、新たなモチベーションを得ることができました。今後の目標は、大学卒業までに全日本選手権で優勝し、プロチームに加入することです。

北方領土問題学生研究会に 選抜される

北方領土イメージキャラクターのエリカちゃんと

国際教養学科 3年
三原 萌

私は独立行政法人・北方領土問題対策協会主催の全国の大学生14名からなる学生研究会に選抜されました。外務省職員や元島民のお話を聴き、専門的な知識を得て、自国の領土問題をより真剣に考えるようになったと同時に、啓発活動を共に行う他大学の学生の活発な取り組みにも刺激を受けています。北方領土問題解決に学生の立場から寄与し、真の日露友好を実現したいと思います。夏に予定されている北方領土視察が待ち遠しいです。

国際関係学部・学科だより　国際総合政策学科

日大生、被災地をゆく。東日本大震災の教訓に学ぶ

後期の学外研修では、新しい取組みに挑戦しました。従来、学外研修の実施地は、日帰りが可能な首都圏近郊に限られていましたが、学生にはより広く日本についての知見を得てほしいという思いから、今回初めて宿泊を挟んだ遠方への研修を計画しました。

研修先は、東日本大震災から7年が経つ東北。2018年は全国各地が台風、豪雨、地震の被害に見舞われ、まさに「災」の一年でした。今後日本は災害とどう向き合うべきか。被災地の教訓から学ぶことが今回の研修の目的です。

上・陸前高田復興まちづくり情報館
下・気仙沼市の津波犠牲者の慰霊碑

11月30日（金）夜、学生20名と引率の教員と助手各1名の一行は、夜行バスで三島を発ち、翌1日朝に岩手県大船渡市に到着しました。同市の防災観光交流センターで津波の被害体験談を聞き、さらに足を伸ばした先の陸前高田市では、有名な「奇跡の一本松」や震災遺構の旧気仙中学校を訪れました。宮城県気仙沼市で宿をとり、2日は地元ガイドの案内で同市内の被災地を見学しました。皆真剣な面持ちで、一つ一つの話に静かに耳を傾けていました。

今回参加の学生たちは、3・11の当時、まだ小学生か中学生でした。彼らが子どもの頃に報道で触れた、あるいは直接目の当たりにした震災の情景は、大学生になって現場を訪れた今、どのような形で心に蘇ったのでしょうか。各々の震災の記憶を胸に、想いをめぐらせる実りある研修になりました。

学術講演会の様子

また、前期に引き続き、後期も4回の学術講演会を行いました。公正取引委員会事務総局中部事務所長の田邊靖夫氏から、独占禁止法の意義と公正取引委員会の役割について、埼玉大学教授の川又伸彦氏から、グローバル・スタンダードで考える日本の人権遵守の状況について、三島税務署長の丸山新次氏から、国税の役割と意義について、株式会社星野リゾート取締役の佐藤大介氏から、日本のおもてなしと星野リゾートの取組みについて、それぞれ講演をしていただきました。各分野の最前線で活躍する専門家の話に学生も聞き入っていました。

来年度も本学科は、学生のために何が有益かを第一に、慣例にとらわれず、常に学科行事の創意工夫、改善に努めていきます。

大学院・国際関係研究科だより

修士課程2年生による学内発表会実施、研究の成果を報告

10月20日（土）、博士前期課程（修士課程）の大学院生が、各々の研究成果を発表する学内発表会を実施しました。今回は7名の院生が報告を行いました。教職員31名が参加し、盛んな討論が行われました。ここでの発表を踏まえ、院生たちは2年間の大学院生活の集大成となる修士論文の完成に向けて、最後の詰めの作業をすることになります。

学内発表会の様子

後期は外部の専門家を招いた「特別講義」を2回実施しました。本学大学院総合社会情報研究科教授の保坂敏子氏が「文化認識の多様性と言語文化教育―日本語学習者は何を『日本文化』と捉えるか―」、立教大学名誉教授・内閣府政府広報アドバイザーの鳥飼玖美子氏が「多文化共生社会を生きるための異文化コミュニケーションのあり方」と題して、それぞれ講義を行いました。質疑応答では、参加した院生と教職員、また学部生も交え、学問的な議論に花が咲きました。

劇団四季のミュージカルにデキシランドジャズ・芸術と学術の秋

後期、教養学科の学生は芸術を堪能しました。劇団四季のミュージカルプログラム「アラジン」（10月4日・木）と「キャッツ」（12月9日・日）の鑑賞を通し、優れた欧米の舞台芸術を学びました。参加者は事前説明会でミュージカルの歴史や特徴、演目の見どころの解説を受け、事後はレポートを提出して理解を深めました。毎回応募者多数の、学生に大好評の芸術鑑賞企画です。

心はキャッツ!? 劇団四季のキャッツシアター前にて

また、12月11日（火）には本学部の山田顕義ホールにて、デキシランドジャズの歴史を学び、演奏を聴く芸術鑑賞会を開催しました。20世紀初頭のアメリカ南部ニューオリンズ発祥のジャズはアメリカが誇る文化です。学生たちはその背景を学びながら、生バンドのジャズの音色に身をゆだねるという貴重なひと時を過ごしました。

小出芳明氏を講師に迎えて、生バンドのジャズを聴く

10月23日（火）には、現在来日中の歴史研究者レト・ホフマン氏による「世界から日本へ（そしてまた世界へ）：世界が見る日本近現代史」、11月9日（金）には佐野真一郎氏（慶應義塾大学准教授）の「日本語・英語の違いと文化」、11月20日（火）には木村政司氏（日本大学芸術学部長）の「デザインと美意識が世界を変える」という学術講演が行われました。多彩な講師陣による講演は、必ずや教養学科の学生たちの多角的な視野形成に役立つはずです。学生たちの成長を願っています。

レト・ホフマン氏の講演会

LANGUAGES & STUDY ABROAD

平成30年度 国際関係学部長杯争奪 外国語スピーチコンテスト結果

英語部門入賞者（12月1日・土 開催）

優 勝	KOHATSU VITOR RYUDI	国際総合政策学科4年
準優勝	原野 敦史	国際総合政策学科1年
3 位	阿部 恒太	国際教養学科1年

中国語部門入賞者（12月16日・日 開催）

【暗唱の部】

優 勝	林 美彩弥	文理学部中国語中国文化学科1年
準優勝	西村 由紀乃	文理学部中国語中国文化学科1年
3 位	亀井 彩花	国際教養学科1年

【弁論の部】

優 勝	髙良 美和	国際総合政策学科2年
準優勝	山田 晴菜	文理学部中国語中国文化学科2年
3 位	三堀 翔子	国際教養学科3年

平成30年度 国際関係学部 留学実績

＊平成30年度中にプログラムを開始した学生のみの人数

留学（派遣）

国際関係学部派遣交換留学	6
日本大学派遣交換留学	3
中期留学（北京大学）	11
中期留学（セント・ノーバード・カレッジ）	10
認定留学（1年）	10
認定留学（半年）	40
TIP（英語圏）	9
TIP（モンゴル）	2
小　計	91

短期海外研修

ストーニーブルック大学	2
ハワイ大学	11
トロント大学	22
フライブルグ大学	4
北京大学	15
サラマンカ大学	10
本部短期海外研修	3
小　計	67

合　計　158名

短期大学部（三島校舎）・学科だより　ビジネス教養学科

ビジネス教養学科では、7月10日（火）に学術講演会を実施しました。学術講演会は学外から講師を招き、ビジネス教養学科で学ぶ様々な科目を実務の世界でどのように生かすことができるのかを学生に知ってもらうことを目的にしています。今回は、株式会社レヴァンセ代表取締役　玉城ちはる氏に「多文化共生～命の参観日～」というテーマでご講演いただきました。玉城ちはる氏は、映画やドラマに楽曲を提供しながらテレビ番組やCM等に出演するとともに、ラジオパーソナリーティーもこなす、まさにマルチに活躍されている方です。広島出身ということもあり平和活動への意識が高く、平和イベントやボランティア活動も行っています。今回の講演では、「自身に出来る社会貢献」として10年間継続されてこられた、アジア地域の留学生を支援する「ホストマザー」という活動を異文化とのコミュニケーションの観点からお話しいただきました。国際関係学部に編入学を希望している学生が多いこともあり、講演の後の質疑応答も大いに盛り上がりました。

夏休み期間中の8月には「インターンシップ」が実施されました。本学のインターンシップは、受入先企業と綿密な連携のもと学科における事前指導の後、2週間の期間で実施されるのが特徴です。参加した学生には2単位が与えられます。

本年度は12の企業に16名の学生がお世話になりました。受入先企業は、三島市役所、三島信用金庫、伊豆箱根鉄道、沼津リバーサイドホテルなど、学生にとって就職先としても魅力のある企業にご協力をいただきました。今後の本格化する就職活動に役立つことは間違いありません。

10月27日（土）・28日（日）には、「富桜祭（ふおうさい）」が開催されました。富桜祭は国際関係学部と短期大学部（三島校舎）合同で開催される学園祭です。ビジネス教養学科からは、大久保ゼミと川戸ゼミが参加しました。

大久保ゼミ

川戸ゼミ

【卒業】に関する日程

国際関係学部・短期大学部（三島校舎）

3月　1日（金）卒業決定者発表

3月25日（月）

13時～
日本大学卒業式（武道館にて）

15時30分～
学位伝達式（日本大学経済学部3号館にて）

18時～（予定）
卒業パーティー
＊参加申込者のみ
（ホテルメトロポリタン エドモントにて）

三島キャンパス 2019年度・前期の予定

- 4/2～4/5 ガイダンス期間
- 4/3 開講式
- 4/6 授業開始
- 4/8 日本大学入学式
- 6/1・8 英語統一試験
- 7/13～7/26 到達度確認期間
- 7/29 前期授業終了
- 7/30～8/1 定期試験（諸過程）教職と栄養士科目
- 8/2 夏季休暇開始
- 8/29・30 追試験
- 9/18 夏季休暇終了
- 9/19 後期授業開始

短期大学部（三島校舎）・学科だより　食物栄養学科

食物栄養学科の1年生は入学から、はや半年以上が経ち、キャンパスの生活にも慣れ、授業、実験、実習、課外活動に励んでいます。

学術講演及び学外研修学術講演は、食物栄養学科1・2年生を対象に毎年実施しています。

平成30年度は11月22日（木）、講師に浜松医科大学医学部附属病院栄養部の渡邉潤先生をお招きし、「災害時における栄養士の役割、災害時の栄養について」のご講演を拝聴しました。日本栄養士会災害支援チーム（JDA−DAT）の実際の活動を数多くの写真を示してお話しいただき、災害時に栄養士が被災地でどのような支援を行うことができるのかを具体的に学ぶ良い機会を得ることができました。次年度も内容を検討して後期に開催予定です。

平成30年度の2年生の後期学外研修は、11月16日（金）に三島市内のホテルでのテーブルマナー講座を行いました。この

食物栄養学科 1・2年生対象の学術講演会

研修では、ホテルの講師の先生の指導の下、実際に洋食のフルコースを食べながら学びます。パワーポイントで例示される様々なマナーの失敗例と美味しい料理に終始、微笑が絶えず、しっかりとしたテーブルマナーを身に付けることができたようです。

短期大学部（三島校舎）・専攻科　食物栄養専攻だより

本専攻科では毎年、食と栄養・健康に関わる幅広い分野の専門家をお招きして学術講演会等を開催しています。

今年度は11月22日（木）に、一般社団法人日本植物油協会専務理事、京都大学特命教授の齊藤昭先生に「植物油に関する基本情報について」と題する、主として植物油の新知見についての講演を賜りました。

植物の栄養を抽出した植物油は、私たちの豊かな食生活を支える上で重要な食品であり、油脂は多くの食品に含まれている身近な成分です。学生は植物油が原料・用途・製造法によりその種類が多岐にわたること、近年明らかになりつつある油脂の種類により人体に与える影響が異なること、そして、使用済油の処理方法などに強い関心を示していました。

12月5日（水）には、沼津市にある先端農業推進拠点の「AOI-PARC」の見学会を行いました。ここでは、産業分野や学術分野などが互いの技術やアイデアを持ち寄って、農業をはじめとする関連産業で新たな価値を生み出す「アグリ・オープンイノベーション（AOI）プロジェクト」をコンセプトに産学の垣根を越えた様々な先進的研究プロジェクトが進んでいます。ご説明くださった施設の方々の熱意を受け止め、専攻科生たちも普段触れることのない研究領域の話に目を輝かせていました。

専攻科食物栄養専攻対象の学術講演会

専攻科食物栄養専攻対象のAOI-PARC 見学

毎年晩秋には静岡県中・東部の大学生、短期大学生、高等専門学校生が集う「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」（富士山麓A&S）が開催されており、今年も専攻科生は各自の研究内容についてポスター発表を行いました。

富士山麓A&Sフェア2018 優秀ポスター賞等表彰者

第4グループ（食物・食品分野）

最優秀賞　日本大学短期大学部 専攻科食物栄養専攻
高田　李奈「市販サラダ類の微生物学的研究」

優 秀 賞　日本大学短期大学部 専攻科食物栄養専攻
池田　聖斗「加熱調理方法の違いによる野菜類中のカルシウムとマグネシウムの変化」

第5グループ（国際分野）

優 秀 賞　日本大学国際関係学部 国際総合政策学科・国際教養学科
林　穂乃佳・三原　萌
「私たちの『北方領土』観と未来のために」

第5グループ（社会分野）

優 秀 賞　日本大学短期大学部 ビジネス教養学科
近藤　舞奈・関　美和
来栖　真奈・中澤　希
望月 良之佑・佐藤　宣仁・森口　春香
「学生の地域内定着促進に向けた三島市版若者地域就職活動モデルの確立」

就職最前線・就職内定者たちの声

平成29年度卒業者の就職率は、国際関係学部で96.6%、短期大学部（三島校舎）で91.5%となりました。就職率は、就職を希望する者に占める就職内定者の割合を表すものです。このほかに、卒業者就職率（就職内定者／卒業者）という指標もありますが、就職を希望しない者や国家試験等受験者、進学者、海外留学者等も分母に含まれるため、大学の就職部門では先の就職率を公表することが一般的です。

平成29年度の全国の大学新卒者就職率は、文部科学省の状況調査で98.0%という高い数値を示しました（平成30年4月1日現在:短大は99.1%）。平成30年度の内定取得状況も引き続き好調感を維持していますが、大企業、人気企業の難易度は相変わらず高く、また、日本経団連会長が採用に関する申し合せを事実上放棄するような声明を出したことから、各企業の採用日程がさらに前倒しされる兆候が明らかになっていますので、早めに入念な準備を進めていくことが肝要です。

考え過ぎずに、感じたものも大切に！

国際関係学部
国際総合政策学科4年　吹越 清優

三菱総研DCS株式会社

私は就職活動を通して学び、感じた事が3つあります。

1つ目は、どの業種に就きたいかを決めた時期です。候補はあったものの具体的な事が決められない状況でした。3年の2月にいくつかのインターンシップに参加しました。実際に体験し、同じインターンシップに参加していた人達と情報交換した事で、今後自分はこうありたいと考えるようになりました。それに繋げて就職先を決めることが出来たので、希望する就職先が見つけられない方は是非インターンシップに参加してみて欲しいです。

2つ目は、会社説明会や座談会、面接についてです。まだ企業や仕事がよくわからない学生だからこそ、興味のあることについて深く聞く事が出来ます。更にプロの方々と直接お話し出来るチャンスはなかなかないので、私にとってはとても有り難く、楽しい有意義な時間を過ごすことができました。

3つ目は、行き詰まった時についてです。どうしても答えが見出せない場面。そんな時助けてくれたのは友人や身内、ハローワークの方々でした。三人集まれば文殊の知恵というように、本来自分の持っているちからが「1」であっても、それに様々な人のアイデアやアドバイスを掛け合わせることで10にも100にもなる、チーム力について改めて知ることができました。

最後に10、20年後の自分はどうありたいのか、それを実現させるためにはどうすればいいのかを考え、行動に移していけば志望する企業への就職に一歩近づけるのではないかと思います！

何を優先して就職先を選ぶのか

短期大学部
専攻科食物栄養専攻2年　八木 勇紀

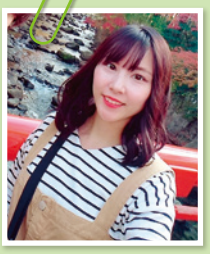
株式会社ヤクルト本社　富士裾野工場

私は将来、管理栄養士になりたくて本学に入学しました。就職活動を行う際も、まずは管理栄養士の受験資格を得るために栄養士、特に委託会社の栄養士に絞って行っていました。同じ栄養士でも直営ではなく委託会社を選んだのは、自宅から近い事業所があることや、充実した研修、就職後のキャリアアップが明確と思えたからです。そして栄養士委託会社のN社、Z社、H社などから内定をいただきました。

しかし栄養士以外の職種も気になりはじめ、改めて様々な業種や会社の事業規模や年間売り上げ、評判や採用条件などを比較しました。中でも自分が特に注目したのは、有給休暇の取得率、1年目の年収モデル、5年目の年収モデル、入社3年以内の退職率です。インターネットネットの情報や企業パンフレットで分からないことは会社説明会の時に詳しく聞いて表にまとめ、改めて就職活動も行いました。

結論として私は、当初考えていた栄養士ではなく、製造職の株式会社ヤクルト本社 富士裾野工場に就職することにしました。この会社を選んだ決め手は、年間休暇日数が多いこと、5年目の年収モデルで1日当たりの給料が栄養士委託会社より5千円くらい多かったことなどが挙げられます。

本学の就活講座で講師の方が言われた「自分は何を優先して就職先を選ぶのか、よく考える」ということは、これから一生涯にわたって働く会社を選ぶ際にはとても重要と思われます。当初やりがいと仕事内容で就職先を選んでいた私ですが、最終的には様々な採用条件を見て、この会社で働くことを決めました。



努力は報われる

国際関係学部
国際教養学科4年　中村 光朝

ANA沖縄空港株式会社

私は幼いころから父親の出張の送り迎えで空港によく行っていました。その頃から空港の雰囲気やアナウンスが好きで空港で働きたいと思っていました。

しかし、実際にどのように就職活動を進めていくのか、エアラインスクールに通ったほうが良いのかなど不安ばかりでした。

そこで私は、3年生の頃に開催されていた履歴書講座や面接対策講座にすべて参加しました。

実際に就職活動が始まり、ほぼ毎日就職指導課に通い、履歴書の添削や面接練習などをして頂きました。そのおかげで自信をもって面接に挑むことができました。

結果として、私は幼いころからの夢である職業に就くことができました。内定の電話を頂いた時の嬉しさは言葉では表すことのできないものでした。就職指導課の方に報告した際も自分の事のように喜んでくれ頑張ってよかったなと思いました。

最後に、在学生の皆さん就職活動は何度も心が折れそうになりますが、程よく息抜きを大事にし、夢に向かって努力をし、自信をもって頑張ってください。応援しています。

記憶に残る人になる！「なりたい、やりたい」を大切に

短期大学部
ビジネス教養学科2年　関　美和

株式会社グランベルホテル

私は様々なお客様と人間関係を築きたい、お客様の思い出の一部になりたいという思いからホテルで働くことを夢見ていました。その夢を叶えるため、早い時期からインターンシップ、合同説明会に参加し、業界研究に努め、ホテル業界の中でもリゾートホテルに就職したいという気持ちが強くなりました。3月になり就活が解禁されてからは、毎週東京に通い、なるべく多くの企業の説明会や選考に参加しました。また、ただ参加するだけでなく人事の方や先輩社員と沢山お話をするように心がけていました。

しかし、周りの友人が早い時期に就活を終了させる中、自分は内定を頂けず…。ホテル業界ならどこでもいいやという気持ちになり、私生活も何もかもが上手くいかず行き詰まってしまいました。そんな時に受けた会社の人事の方との面談で「自分の軸を再確認しよう」というアドバイスを頂き、自分を見つめ直すきっかけになりました。

今思えば、四大生や専門学生に負けず、あんなに自信を持って企業の方とお話出来たのは、幅広い分野を学べるビジネス教養学科に学んだからこそです。自分を強くしてくれた、かけがえのない思い出です。多くの学生の夢が叶うことを祈っています。